

取り組みを通じて、成長が感じられた3日間でした

1年 清里移動教室 7月13日(月)～15日(水)

移動教室一日目、東京の蒸し暑さとは打って変わり清里は湿度が低くて涼しく、強い日差しもなかったため、屋外での活動にはもってこいの気候でした。昼食場所の「美味小舎」でバーベキューを食べた後、バス10分ほどで清里駅近くの村営駐車場に到着、ここをスタート地点として美し森展望台まで、班ごとにオリエンテーリングを行いました。



スタートして10分ほど鬱蒼とした森の中を歩くといきなり視界が開け、のんびりとした牧草地の横道をキープファームの展望テラスまで進み、そこから再び森の中の遊歩道に入ります。緩やかな登りの道で30分くらい同じような景色が続くことからめげそうになりましたが、木々で日差しが遮られ涼しいので、思いのほかがんばることができました。

むしろ一番きつかったのは、「美しの森」展望台まで一気に登っていく最後の階段でした。しかし展望台から見下ろすと清里高原が一望でき、ここまで自力で登ってきたからこそ得られる充実感を感じました。頂上の石碑の前で、班ごとと学級ごとに集合写真を撮りました。



夕食後は、レク大会を楽しみました。レク系の進行で、4種目を行いました。どの種目も知力・体力・チームワークを使わなければならない凝った競技で、班で協力しながらみんな真剣に取り組むことで、大いに盛り上がりました。

移動教室二日目は快晴、ハケ岳の山々がくっきりとその姿を見せてくれました。高原のさわやかな風の吹く中、ハケ岳中央農業実践大学校へ行き、「農林業体験」をしました。午前中は、各自が希望した体験活動を、大学校の先生方にご指導いただきながら、取り組みました。炭焼きや林業、酪農やバター・チーズ・ジャム作りなど、どれも日頃できない仕事＝労働活動なので、楽しいだけでなく、そこから学ぶこともたくさんありました。



午前のプログラムの終わりには、各体験活動で得たことを発表しあい、共有することができました。



昼食をはさんで、午後は「森づくりワークショップ」を行いました。全員がヘルメットを着用し、一人一本“手のこ（小型ののこぎり）”を腰に下げ、学級単位で森の下草刈り等に取り組みました。のこぎりを使ったこうした作業はほとんどの人が初めてで、森の保全について知る貴重な体験になりました。

農業大学校の先生が開校式でお話されていたように、「五感を働かせて」実際に関わることの大切さを実感した体験学習でした。

この日の夜は、「ナイトハイク」とレク大会を、クラスごと1時間ずつ交代で行いました。「ナイトハイク」は、宿舍周辺の森を使い、キープ協会のレンジャーの方の指導のもと、自然を五感で感じる体験活動です。暗闇の中、視覚が役に立たないことで、意外な発見や気づきがあり、東京では味わうことのできない自然体験となりました。





移動教室三日目、最終日は退園式の後、笛吹市の観光農園で桃狩りを体験、そこで弁当を食べました。その後の高速道路では大きな渋滞もなく、農園での昼食も早々に終わったことで、予定より少し早めに帰着することができました。

今回、中学生になってからの初めての移動教室ということで、始めはうまくできていないこともありましたが、各自が考えたり互いに協力したりすることで、日を追うごとにうまくできるようになり、この3日間でそのどれもがレベルアップされていきました。ここで培った力をこれからの学校生活でも生かして欲しいと思います。今回の取り組みを通じて、一人ひとりが、そして学年集団として、成長が感じられた3日間となりました。